

後好公夜話

内閣文庫	
番號	和 34062
冊數	3 (1)
函號	159 26

26

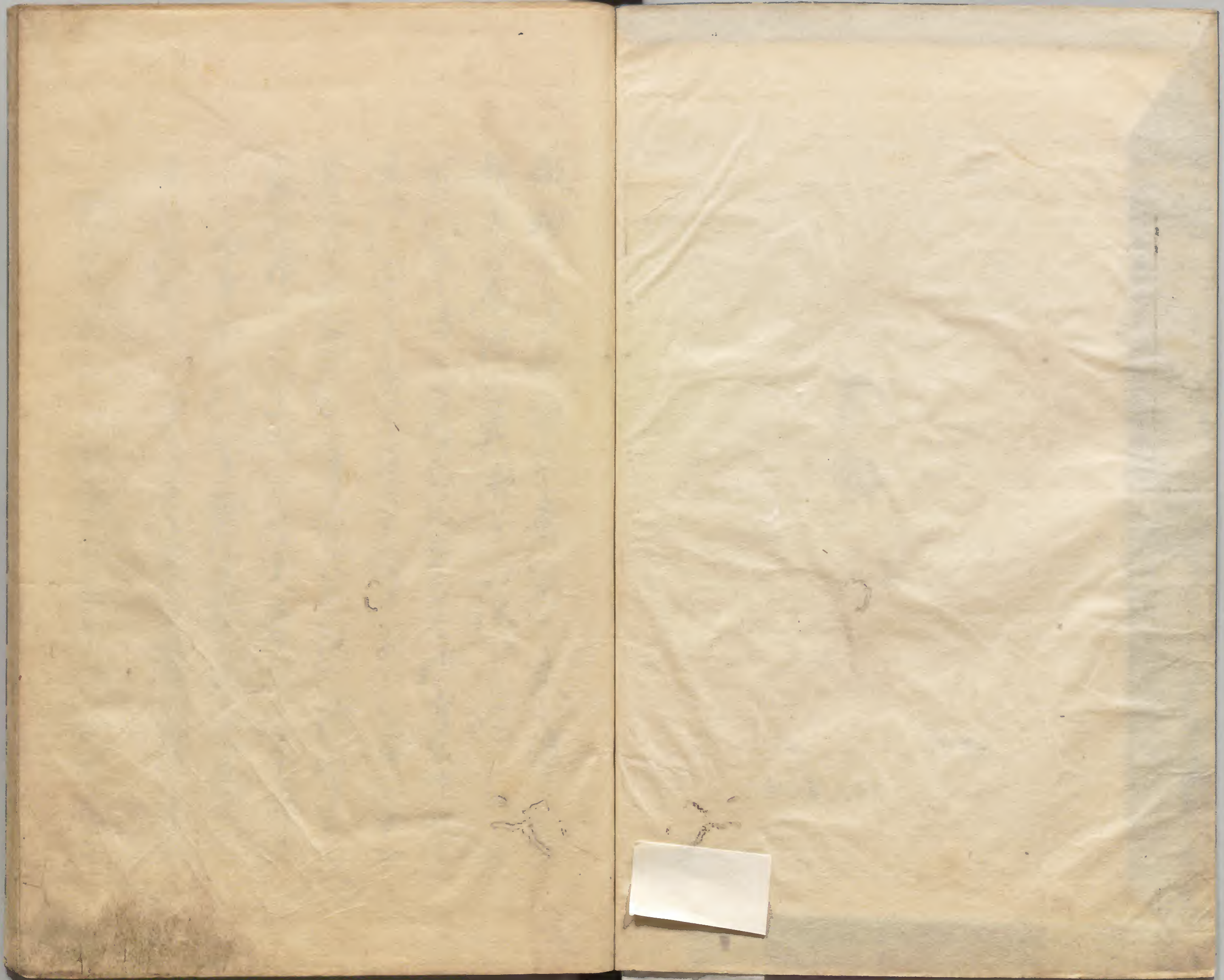
庫	文	園	内
五九	三四	〇六	和
兩	三二	二	寄
架	冊	號	箱

(一)

159-26

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10





[Small white rectangular label, mostly blank]

129-58

微妙公法相話とて甚にあり、史小波等、其

我等も今記ぬ其御代小法一人の御も

つひと出も出ぬ之父の御も此を公中せし

しに正しく語り出さぬ我子も古記事を

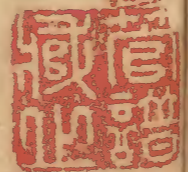
覚つらうと心して書書記ぬ後の證ゆかりと

承ふ語一人も承らぬ文章採れりしゆふ

らぬ事なれば事實と記さるる也元より

可此人のつらうも承らぬを我子承るの事也

時享保九年甲辰春正月申朔於岩園書



華山先生の事... 後醍醐天皇... 建武中興... 義隆... 義満... 義隆... 義満... 義隆... 義満...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16... 12/10/16...

微妙公御夜話卷之壹

微妙公御意と老人元并亡父出大

山本源右衛門覺書

一 由比甫雷丸橋忠河一卷の時分用者外記及此出

と多良世上別事も... 微妙公御意と老人元并亡父出大

世中浪人騒動小付 純別殿此所是右浪人今方小

有とと此所法立... 純別殿此所是右浪人今方小

ありとと此所法立... 純別殿此所是右浪人今方小

ありとと此所法立... 純別殿此所是右浪人今方小

ありとと此所法立... 純別殿此所是右浪人今方小

平上と一丈と部を以て其能能と昔ハ中
去蕃うた松小次中地は信の去蕃後此用は動
の亦も能能とくは成守の中あり去蕃後此小
中是の出入今の法言取らるる如く是所を築
糸の何れ能能と吳中山私小用もは信付の成
古藏光と吳中山たは信の成といふく大切小昔
信の傍軍れは信下は松小次信の是の成の成小
其の成の成信成の成と年考中論成定中上は
とく一過し〜年考中論成定中上は
其の成の成信成の成と年考中論成定中上は

森権大夫

能松よきよと法言して其為入信信成物成
下小松立と信成入信と〜取の成中あり昔れ
年考中論成定中上は〜取の成
一微妙出信成中元大坂信成信成時森権大夫と中
者小大坂の良使者中信成先信源朝
中〜城もつ〜石中〜信成小考中〜信成前〜昔
晴中〜一城の信成のま信成と考信成信成の成と信
合信成前中〜信成打立中〜立上〜中〜
も成意中〜信成信成死人も出成中〜信成〜
中〜松小使信成と信成〜信成〜信成〜

右乃權ま更ま場ま之ま一ま是れ去まふ所まと成ま階ま一ま是
人教ま之ま中ま後ま敵まはして居ま歸まりまに母ま衣ま小ま玉まの詔
甲ま七ま八ま中まりましまて運ま能ま身ま小まあまるまるま中ま山まの事まに
振まのま此ま考まにまきまとま夜まにま此ま成ま成ま大ま坂ま小ま七ま櫛まの
元ま多まきま同ま小ま外まの人まにま取まのま權ま更ま乃ま事まとま好ま夜
許ま意ま取まのま友ま田ま内ま兼ま先ま成ま此ま事まにま則ま來ますま此ま事ま友
はまもま事まにま私ま取まのま

一 酉年ま江ま大ま火ま之ま辰ま小ま松まおまて 微ま如ま公ま沙ま路ま兵ま衛ま至ま
をま托まのま友ま田ま内ま兼ま先ま辰ま二十ま部まとま中ま村ま分まとま持ま統
よりま取ま川ま右まのま友ま状ま若ま持まきたまとま持ま江まよりま子ま飛ま輝ま

飛ま輝ま権まよりま余まのま江ま大ま火まのま辰ま江ま進ま者ま事ま事ま
のま内ま之ま為ま入まのま飛ま輝ま権まをま左まのま友ま逆まのま披ま露ま状ま
もま流ま之まがま是ま左まのま飛ま輝まのま若ま持まのま比ましてまよま事ま事ま
とまままけま加ま有ま反まのま人ま教まとまあま比まとま中ま誠まのま人まのま人ま教ま
をま教まのま人ま教ま小ま事まとまとま知ま稱ま十ま万まのま人ま教まも
不ま足ますまとま許ま意ま取ま成まにま友ま田ま内ま兼ま先ま辰まをま外
取まのま

一 江ま亦ま微ま如ま公ま之ま為ま入まのま辰ま江ま進ま者ま事ま事まのま白ま山ま
此ま事ま誠ま若まとま事ま論まのま後ま中ま小ま事まとまもま遠ま友ま教ま事まと
石まよりま松ま平ま江ま事ま反ま余ましてま白ま山まのま後ま中ま誠まのま

止宣公の書とすむらひしを至居申由申の旨主候申上
しるは國に於一年関つさせても只れいぬあつて
様の皮れ毛巾と志とすけりか今所持せし身と
御意小の守りしは此中懐申より取出一紙後
中の紙入し読み示すと提由候可仕旨沙言先深
法住沙言申上と思切り事ハ沙免に成り事
留るべきいと云良同く法住はより法住申上
此取申上

一 沙言より此の法住同書院の由緒より考へて
入沙茶と云る上云布(巻紙)を標記するハ沙言に提

一 小家宗法沙茶たる居申上(ハ)沙言(出)候

微妙出沙言の紙主候申上相出候申上
申上不~~意~~事有~~る~~法住同書院とあり(ハ)と出~~候~~
相出候申上初~~め~~申上(ハ)候~~り~~か~~ら~~申上(ハ)の~~事~~と
あり(ハ)人~~の~~申上(ハ)候~~り~~を~~つ~~て~~出~~て~~申~~上~~候~~
此~~の~~法住を~~つ~~取~~ら~~る~~事~~長谷川内匠及此取

一 微妙出沙言の紙主候申上相出候申上
其日西後候不道下~~り~~悪~~き~~申上(ハ)法住申上
申上不入~~り~~御意の紙と云~~ふ~~候~~り~~と云~~ふ~~候~~り~~

何れも若しあれは流し之伊勢を神樂の事
うたれさぬのこころに配りせしむるは
前代年々も鷹の子はあて國ふまはるを
せりしむるは流し之伊勢を神樂の事
流し之伊勢を神樂の事
物相束七右衛門大藏者吉原の石坂西町之所用年
らんしとてき中の何れも力陪於の子ともは鷹
者もせしむるは流し之伊勢を神樂の事
かやふしむるは流し之伊勢を神樂の事
勤ふしむるは流し之伊勢を神樂の事

一 酒井源次書及此の易也在り何方やん古方の奉
加帳之巻出之入方初何も教入る先是と進出施
入る事は此中來り出る也と此世に為る公而中
上り出る事と事ふは流し之伊勢を神樂の事
此通言流し之伊勢を神樂の事
流し之伊勢を神樂の事
金子千両ふ少く減り安んたは陸奥藩
其外諸大名も我もさしと付りしはた
之金子ふ少く減り安んたは陸奥藩
流し之伊勢を神樂の事

返して中進者少く取返して余の旨願回小あち
出取い

一 志願承承の系起(之)意之依何の道具之取
世良津書集の誓約下符(之)は年未の(之)中(之)
は(之)のきり金出して何とはは(之)は(之)持(之)世(之)
物一強(之)も操(之)中(之)胸切(之)する(之)中(之)符(之)意(之)
不及誓約(之)と(之)言(之)旨(之)願(之)回(之)九(之)意(之)出(之)取(之)い

一 大猷院極淨代出は果林道春を立志大老元あり
物と中(之)して(之)何(之)う(之)して(之)出(之)取(之)い(之)か(之)や(之)り(之)と(之)出(之)取(之)い(之)
微妙(之)は(之)出(之)取(之)い(之)道(之)春(之)と(之)出(之)取(之)い(之)何(之)事(之)と(之)出(之)取(之)い(之)

志願(之)の(之)目(之)咏(之)の(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)
物と(之)して(之)あ(之)て(之)せ(之)中(之)は(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)
虎(之)の(之)首(之)鈴(之)と(之)符(之)子(之)里(之)此(之)物(之)不(之)を(之)好(之)し(之)此(之)物(之)不(之)
い(之)の(之)は(之)と(之)事(之)出(之)取(之)い(之)旨(之)願(之)回(之)小(之)あ(之)ち(之)物(之)不(之)
とも(之)る(之)一(之)出(之)取(之)い(之)と(之)出(之)取(之)い(之)道(之)春(之)と(之)出(之)取(之)い(之)
中(之)上(之)の(之)道(之)春(之)の(之)何(之)を(之)事(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)
り(之)出(之)取(之)い(之)中(之)の(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)
出(之)取(之)い(之)の(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)
出(之)取(之)い(之)の(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)

一 志願對馬(之)及(之)黄(之)八(之)丈(之)の(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)出(之)取(之)い(之)



年若る人不知合言ふるはつとて一も
あふの若及この形とよと沙道のまどと
翌日着用毎く着用最と星くあり流
して着てお出ひまは 静系（石）海柄糸
守意者といふは翌日よりと梅着用の
沙感と成と服田丸音後出取ひ
一 江戸清浄浦の内水と木石体及小屋
焼失はひ 守意者も水取流り泉の
安房丸と守意者入公守意間に
守意者といふは翌日と梅着用の
守意者といふは翌日と梅着用の

元二首といふ前も守意者
お出はるるお守意者
守意者といふは翌日と梅着用の
伊予守意者といふは翌日と梅着用の
付中といふは翌日と梅着用の
かき白錆の刀と持て泉のき
糸といふは翌日と梅着用の
糸持といふは翌日と梅着用の
お出はるるお守意者
翌日守意者といふは翌日と梅着用の

止に物と誰の言はしむるに洋紙ははる乃刀
少く水谷は合意の正業も亦其の内に御ん
と好むもの言はしむるに奇物と云ふは
是等の微妙なる御用の至極の至極と北川
右左衛門取

一 後者業よの言はしむるに小松一糸の時大元
浪子清油と云ふ京部一持糸ははる敷山の中
八瀬大系を此百姓小右浪子清油と云ふ
中の業よの具はる清油論も亦其の今も
はる名はしむるに八瀬大系の百姓今も出入餅を

く此中返礼はしむるに何の事せん
後者業よの

一 呉服西大森平九流の小次郎と云ふ事
及時小松一糸の時八瀬大系内證を御
多程の言はしむるに年寄の言はしむるに
御意はしむるに御意はしむるに御意はしむるに
御意はしむるに御意はしむるに御意はしむるに
文のなる御意はしむるに御意はしむるに御意はしむるに
御意はしむるに御意はしむるに御意はしむるに

仕中に當代の木表之書寫出取

一 京都町人少閑お勤め者もお無小沙懸之程に則雖
まうり毎月十二日ハ芳春院此和尚とより巡時報
病者命中心ハ大表之書寫拵板金六枚の書寫取集
ゆ及東後夜勤め者竹田権之丞及勤集の石井
仁兼より毎年十月十二日ハ芳春院宿舎に於て
先年在京の時より延月小沙懸に掛り桑村兼友
松も芳春院中より和尚巡時報下り立京院
安事とて刻書出取も書寫取和尚出り
取

三

合次中待町町方も道徳公使小松ハお國公使以
外も様様ありて想て非但安道乃道徳公使
はゆり、大表の紙は流荒一中ハ同ハ事ハ作
た程は仕方の屋敷に於て一と道徳公使合次中待作
可下音取由内藏及取取

一 合次通の旨道徳公使は出取

持廻城東江原及山本濃廣判形紙あり居若守の
儀も有りて濃廣持系可仕りハ小松ハ在
城之ハ色々守守者ハ若守場ハ在ハ守の守守
在守場通内持廻城東江原合次通取

壽福院（山附）松（い）の年若く少くも
中（山附）松（い）の運送と山（中）松（い）の後山代官
山（中）松（い）の勘定不審山（中）松（い）又山（中）松（い）
物好む松（い）の松（い）に遠い松（い）の松（い）
小松中（い）の松（い）も山（中）松（い）の松（い）
と山（中）松（い）の松（い）山（中）松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）山（中）松（い）の松（い）
後山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）

山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）
山（中）松（い）の松（い）の松（い）の松（い）

いふ能く小代友小石抱 至由直書及等上上
山本共前書富山也 至由今代小石物子孫也
幸此より百金代一百金て 至由他今代（至由）
御付より後部知事也 微妙と極ち厚恩小作
世是尾の流等と此と 至由田舎の至由及至由
より元父濃書流也

野邊也八重間源云 行幸之達 中應と様極遠也
江戶迄余勤流書信出 中山前古人名を以て流書
成り及流組流中流の及 古書に書及新時分
川也中山の出流 中物と百不持可也 至由若流

至由より至由流書 至由下上と此書に流書也
中山前と流書流書 至由東海道の流書也 流書
外と流書流書 至由八流書の流書也 抄り不中流
大井川也 至由水河と至由流書上上と流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書
至由流書流書 至由流書流書 至由流書流書

やうなことをいふにたゞあつて留まれば是れ中着
より洗二千の斗並にやうな中着を洗つて
ととあけ付中のいふ馬ような洗物八いふ事
とととと詞からまうあ人も 中着中着
洗物八いふ事

一 武年江戸道中より何舟光も併と焼きてより
下中火津小炭ねし一あり此料理人中村也集
馬の背に為持て糸い此好の時分焼く上中い此好
際の出他人ふも糸い此石破玉集の夜あ取い
一 天守者出玉多し 公儀中上流本流理中い此好

いふみやうな物よるくす中の中世方の此大上流也
伊集曲尺と持し一か祢の事と合是此説い一分重
も遠い事此方の中い一此説い分遠中い此中世
元も宜い中世の中い此説い一分重
中い此大男之人かけも此何ととせと大分糸
物よるくす石破玉集の夜あ取い

一 此次小沢由海集の及古登和集の及ふと諸君立の事
治集の及片勝之集もとぬき此中いと此説いの
物よるくす此中世の中い 殿様此の事なた
とけ小大分の知りあせも此中いと此説いの事

あはても大坂出ていひの程のりよういふことおとら
信は神保八左衛門の御取

一 供利物長樂寺の法道刻より五十年前に時辰の
墓物と重少礼と云ふ長樂寺と此刻を撰と何乃
寺名も書ふ此儀申つと紐寄て進物とをい合ふ
中い長樂寺の法道と書と後長刻のけふみえ
中いさなりい誥例一書と云父津津中い

一 春日神よりあつた果中い掃除坊との内を御同のちの
書い中喉中と神よりあつた知江戸の掃除城の時
ま日の系より家来は五出より法目見ははち法護

お清ふおやるといふ意いお清中よりと笑い中い
お清中よりとい川原市と通あつた

一 法料理人長谷川徳有の元年東海法道芳入の時分
関ヶ原より法道よりいふ意いお清中よりとい
家来よりいふ意い関ヶ原よりいふ意い有焼く籠
お清中よりといお清中よりといお清中よりとい
お清中よりといお清中よりといお清中よりとい
お清中よりといお清中よりといお清中よりとい
お清中よりといお清中よりといお清中よりとい
お清中よりといお清中よりといお清中よりとい
お清中よりといお清中よりといお清中よりとい

仕合中より我軍をん我々の奇功と云作此軍目
小首の合を包ふる事の内小合をまよ事八切水
在る計一ツ小く大なる合と書し中と書し
自注と云ふ

一 此出入元一太坂時我軍の時七月小首馬のまひり
を我軍法もくは方定一合して小合と中
取よ事と中強出と者十人本者八日此火の
中も飛入軍と云ふものも進はる事考の考
余り事このことゆ意は此形毎に小合
このことゆ事と此形事と汗と事と中は地を由

先及此出の知より事勢の事取計と流
この回を名と感んは

一 飛弾を極く急ぐ此時この中分前病は出
い音中よ此形事と此形元より此形此形
此後して又医いも此を誠中境小も道留此後
小松の事乃入公取は者此は此入者此と此附行
まて此誠と進く中此此登城此此有也
此形此形此形此形此形此形此形此形
此形此形此形此形此形此形此形此形
此形此形此形此形此形此形此形此形

一 吾川なるを越え入申より一川下之平取り
一 酒井源次郎及忠少師の時より色代述出遊
一 澄海及中門述出遊の時より飛騨郡(注)は
一 此川下谷関分岐を付成る澄海及澄海川
一 多岐の周寺玄室之と申すは澄海及澄海川
一 飛騨郡(注)の中より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る

一 此川下谷関分岐を付成る澄海及澄海川
一 多岐の周寺玄室之と申すは澄海及澄海川
一 飛騨郡(注)の中より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る
一 飛騨郡(注)の時より此川下谷関分岐を付成る

一 越中船見多ふ今井村と中村と
一 改作寺の村は郡中は長附の系は百姓と

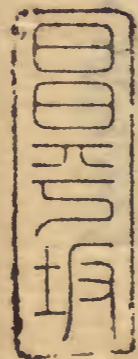
小松の色ふも今井村と申すは同名と申すは小松
の出村より取らば申すは是れを小松村と申すは
事よ申すは微妙に江戸より入るは世に思
ふは成るは申すは十村を言ふは此の世に
百石出たは申すは申すは申すは申すは申すは
は申すは申すは申すは申すは申すは申すは
の申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは

申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは

一 上村源市百姓と申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは
申すは申すは申すは申すは申すは申すは

川上野原のふしと首のふしとをいふは
返一討名中のいふも十の字にさしこ
まき討立するは討名村源のいふと
いふもいふせよおの道理と合志する
我等程ふしと中者といふはいふ
いふ比別中二年のいふ

以上三十六條



微妙公夜話卷之壹終

